

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3143766号
(U3143766)

(45) 発行日 平成20年8月7日(2008.8.7)

(24) 登録日 平成20年7月16日(2008.7.16)

(51) Int.Cl.

A 4 5 B 21/00 (2006.01)

F 1

A 4 5 B 21/00

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2008-2922 (U2008-2922)
(22) 出願日 平成20年4月7日(2008.4.7)(73) 実用新案権者 508136135
奥村 いずみ
東京都世田谷区代田6丁目16番地4号
(72) 考案者 林 律子
東京都狛江市猪方4丁目4番地13号

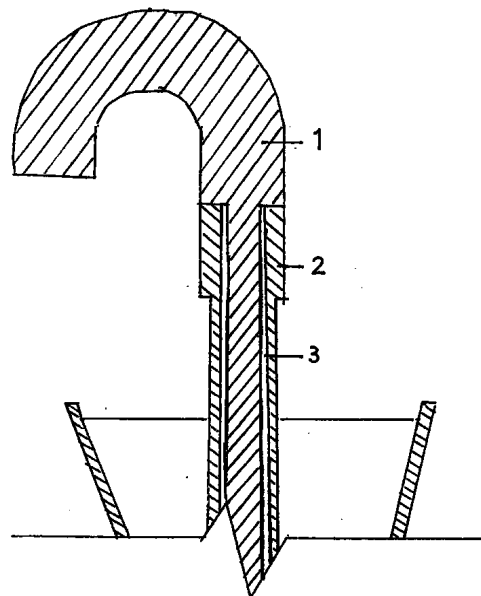
(54) 【考案の名称】 杖付長傘

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】片手が自由に使えるように、杖と長傘が一体型になる杖付長傘を提供する。

【解決手段】長傘2の軸の一部及び柄に、収納室3を設ける。収納室3に杖1の柄を除く部分を収納することにより一体型になる杖付長傘を特徴とする。高齢者が、杖と長傘を別々に両手に持つ場合は、両手がふさがり転倒の危険性が高いので精神的苦痛を伴い、杖と長傘を一体型にすることにより片手が使えて、安全な歩行が可能になる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

長傘（２）の軸及び柄に収納室（３）を設け、当該杖収納室（３）に杖（１）を収めた一体型を特徴とする杖付長傘。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は、長傘の軸及び柄の部分に収納室を設け、杖の一部を収納した杖付長傘に関するものである。

【背景技術】

10

【０００２】

従来、杖と長傘は別々になっていた。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００３】

高齢者が、杖と長傘を別々に両手に持つ場合は、両手がふさがり転倒の危険性が高いので精神的苦痛を伴う。従って、杖と長傘を一体型にすることにより片手が使えて、安全な歩行が可能になり、前述の欠点を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００４】

20

長傘（２）の軸の一部及び柄に、杖（１）の柄を除く部分を収納室（３）に収納することにより一体型になる杖付長傘。

【考案の効果】

【０００５】

雨が降っていない時は、杖と長傘が一体型になっているので、片手が自由に使えて安全な歩行が可能になり、前述の欠点を解決しようとするものである。今後の日本の高齢化社会ということを考え合わせると非常に有用なものであると考える。

【考案を実施するための最良の形態】

【０００６】

以下、本考案を実施するための最良の形態について説明する。

30

長傘（２）の柄及び軸の一部に収納室（３）を設ける。

杖（１）の柄を除く部分を長傘（２）の収納室（３）に差込み、固定して一体型とする。

本考案は、以上のような構造である。

【図面の簡単な説明】

【０００７】

【図 1】 本考案の断面図である。

【図 2】 本考案の側面図である。

【図 3】 本考案の側面図である。

【図 4】 本考案の側面図である。

40

【符号の説明】

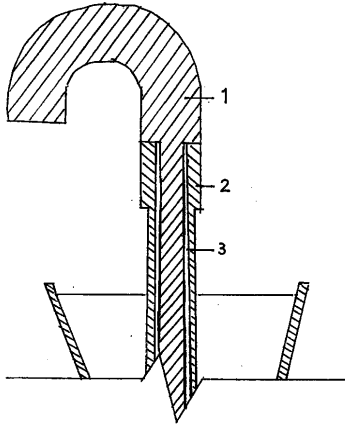
【０００８】

1 杖

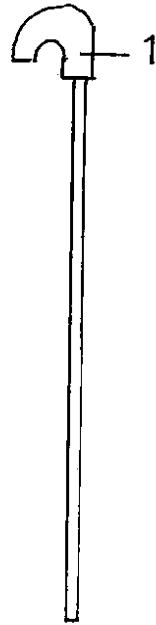
2 長傘

3 収納室

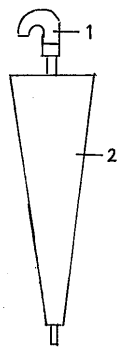
【図 1】



【図 3】

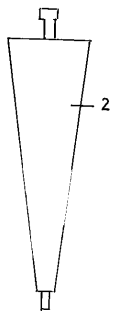


【図 2】



1 杖、2 長傘、3 収納室

【図 4】



1 杖、2 長傘、3 収納室